

Ⅲ 財務諸表等

1. 貸借対照表

令和 2年 3月 31日現在

(単位:円)

科 目	当年度	前年度	増減
I 資産の部			
1. 流動資産			
現金	617,995	352,744	265,251
預 金	77,347,389	58,702,803	18,644,586
流動資産合計	77,965,384	59,055,547	18,909,837
2. 固定資産			
(1) 基本財産			
預 金	67,555,201	128,936,993	△ 61,381,792
投資有価証券	848,118,479	748,524,487	99,593,992
差入保証金	84,326,320	122,538,520	△ 38,212,200
基本財産合計	1,000,000,000	1,000,000,000	0
(2) 特定資産			
退職給付引当資産	154,037,789	136,217,826	17,819,963
学術出版・調査研究積立基金資産	151,329,853	204,649,453	△ 53,319,600
特定資産合計	305,367,642	340,867,279	△ 35,499,637
(3) その他の固定資産			
設 備	101,096,933	60,389,176	40,707,757
備 品	19,498,801	18,435,370	1,063,431
リース資産	870,570	1,567,026	△ 696,456
その他の固定資産合計	121,466,304	80,391,572	41,074,732
固定資産合計	1,426,833,946	1,421,258,851	5,575,095
資産合計	1,504,799,330	1,480,314,398	24,484,932

科 目	当年度	前年度	増減
II 負債の部			
1. 流動負債			
短期リース債務	696,456	754,494	△ 58,038
預り金	2,019,986	2,995,073	△ 975,087
賞与引当金	14,126,667	0	14,126,667
流動負債合計	16,843,109	3,749,567	13,093,542
2. 固定負債			
長期リース債務	174,114	870,570	△ 696,456
資産除去債務	45,105,096	0	45,105,096
退職給付引当金	154,037,789	136,217,826	17,819,963
固定負債合計	199,316,999	137,088,396	62,228,603
負債合計	216,160,108	140,837,963	75,322,145
III 正味財産の部			
1. 指定正味財産	151,329,853	204,649,453	△ 53,319,600
(うち特定資産への充当額)	(151,329,853)	(204,649,453)	(△ 53,319,600)
2. 一般正味財産	1,137,309,369	1,134,826,982	2,482,387
(うち基本財産への充当額)	(1,000,000,000)	(1,000,000,000)	(0)
正味財産合計	1,288,639,222	1,339,476,435	△ 50,837,213
負債及び正味財産合計	1,504,799,330	1,480,314,398	24,484,932

2. 正味財産増減計算書

平成 31年 4月 1日～令和 2年 3月 31日

(単位:円)

科 目	当年度	前年度	増 減	摘 要
I 一般正味財産増減の部				
經常増減の部				
經常収益				
基本財産運用益	5,729,964	6,892,738	△ 1,162,774	
特定資産(退職給付引当資産) 運用益	694,852	753,367	△ 58,515	
受取会費	165,870,000	145,870,000	20,000,000	維持会員会費
日本証券業協会	127,640,000	107,640,000	20,000,000	
日本取引所グループ	21,170,000	21,170,000	0	
投資信託協会	17,060,000	17,060,000	0	
受取研究会等負担金	5,754,802	7,052,055	△ 1,297,253	
日本証券業協会	5,754,802	7,052,055	△ 1,297,253	
受取研究調査費	3,855,252	4,941,000	△ 1,085,748	
日本証券業協会	2,057,578	3,673,363	△ 1,615,785	
日本投資者保護基金	1,178,262	453,480	724,782	
日本取引所グループ	619,412	814,157	△ 194,745	
指定正味財産からの振替額	336,410,877	295,680,080	40,730,797	
受取一般寄付金	120,000	120,000	0	
刊行物収入	2,187,318	1,053,627	1,133,691	
複写料収入	128,500	229,283	△ 100,783	
講演会関係収入	754,000	958,000	△ 204,000	
流動資産運用収入	2,785	3,485	△ 700	
經常収益計	521,508,350	463,553,635	57,954,715	

科 目	当年度	前年度	増 減	摘 要
経常費用				
事業費	389,683,656	391,409,216	△ 1,725,560	
役員報酬	29,192,184	29,188,894	3,290	
給与手当	116,824,529	119,910,486	△ 3,085,957	
退職給付費用	15,096,712	15,186,464	△ 89,752	
福利厚生費	20,729,196	19,535,427	1,193,769	
賃借料	94,068,009	83,006,908	11,061,101	
諸謝金	17,520,985	19,317,649	△ 1,796,664	
原稿料	5,319,444	4,786,124	533,320	
図書費	13,658,320	14,593,984	△ 935,664	
情報提供整備費	3,761,072	3,448,008	313,064	
情報調査費	2,381,447	371,148	2,010,299	
什器備品費	502,296	7,931,106	△ 7,428,810	
印刷費	19,151,775	23,575,022	△ 4,423,247	
複写費	2,674,678	2,519,940	154,738	
学会その他会費	2,109,200	2,109,200	0	
会議費	10,487,426	6,696,707	3,790,719	
旅費交通費	9,698,389	10,552,617	△ 854,228	
通信運搬費	5,433,111	14,043,809	△ 8,610,698	
設備減価償却費	3,765,412	1,202,067	2,563,345	
備品減価償却費	4,383,795	2,290,881	2,092,914	
リース資産減価償却費	574,576	798,578	△ 224,002	
事務機器関係費	370,846	378,409	△ 7,563	
消耗品費	653,451	1,063,650	△ 410,199	
修繕費	130,215	755,007	△ 624,792	
支払手数料	0	7,846,882	△ 7,846,882	
賞与引当金繰入	10,935,467	0	10,935,467	
雑費	261,121	300,249	△ 39,128	
管理費	75,981,655	80,824,638	△ 4,842,983	
役員報酬	12,510,936	12,509,526	1,410	
給与手当	28,231,006	29,973,291	△ 1,742,285	
退職給付費用	4,580,477	4,573,734	6,743	
福利厚生費	6,143,901	5,835,873	308,028	
賃借料	14,281,454	17,398,050	△ 3,116,596	
諸謝金	1,387,500	1,255,840	131,660	
租税公課	270,500	105,780	164,720	
什器備品費	0	2,323,480	△ 2,323,480	
複写費	221,773	188,210	33,563	
学会その他会費	192,800	192,800	0	
会議費	608,580	702,422	△ 93,842	
旅費交通費	662,672	770,038	△ 107,366	
通信運搬費	245,938	594,929	△ 348,991	

科 目	当年度	前年度	増 減	摘 要
設備減価償却費	605,219	186,635	418,584	
備品減価償却費	757,010	229,733	527,277	
リース資産減価償却費	121,880	169,398	△ 47,518	
委託費	694,300	865,080	△ 170,780	
事務機器関係費	54,534	126,986	△ 72,452	
消耗品費	672,660	665,448	7,212	
修繕費	7,500	180,778	△ 173,278	
支払手数料	0	1,286,958	△ 1,286,958	
賞与引当金繰入	3,191,200	0	3,191,200	
雑費	539,815	689,649	△ 149,834	
経常費用計	465,665,311	472,233,854	△ 6,568,543	
当期経常増減額	55,843,039	△ 8,680,219	64,523,258	
経常外増減の部				
経常外収益計	0	0	0	
設備除却損	0	4,806,162	△ 4,806,162	
備品除却損	41,052	2,198,639	△ 2,157,587	
リース資産除却損	0	792,816	△ 792,816	
雑損失	53,319,600	5,508,726	47,810,874	
経常外費用計	53,360,652	13,306,343	40,054,309	
当期経常外増減額	△ 53,360,652	△ 13,306,343	△ 40,054,309	
当期一般正味財産増減額	2,482,387	△ 21,986,562	24,468,949	
一般正味財産期首残高	1,134,826,982	1,156,813,544	△ 21,986,562	
一般正味財産期末残高	1,137,309,369	1,134,826,982	2,482,387	
Ⅱ 指定正味財産増減の部				
増加の部				
受取助成金等	283,091,277	275,680,080	7,411,197	
受取助成金	281,336,000	273,337,000	7,999,000	
資本市場振興財団	251,006,000	243,007,000	7,999,000	
日本証券金融	1,200,000	1,200,000	0	
日本取引所グループ(大取)	27,530,000	27,530,000	0	
金融先物取引業協会	300,000	300,000	0	
日本投資顧問業協会	300,000	300,000	0	
証券保管振替機構	1,000,000	1,000,000	0	
受取特定寄付金	1,500,000	1,500,000	0	
指定正味財産運用益	255,277	843,080	△ 587,803	
減少の部				
一般正味財産への振替額	336,410,877	295,680,080	40,730,797	
当期指定正味財産増減額	△ 53,319,600	△ 20,000,000	△ 33,319,600	
指定正味財産期首残高	204,649,453	224,649,453	△ 20,000,000	
指定正味財産期末残高	151,329,853	204,649,453	△ 53,319,600	
Ⅲ 正味財産期末残高	1,288,639,222	1,339,476,435	△ 50,837,213	

正味財産増減計算書内訳表

平成 31年 4月 1日～令和 2年 3月 31日

(単位:千円)

科 目	研究調査事業	講演会事業	図書館事業	共通	公益目的事業計	法人会計	合計
I 一般正味財産増減の部							
經常増減の部							
經常収益							
基本財産運用益				5,730	5,730		5,730
特定資産(退職給付引当資産)運用益						695	695
受取会費				82,935	82,935	82,935	165,870
日本証券業協会				63,820	63,820	63,820	127,640
日本取引所グループ				10,585	10,585	10,585	21,170
投資信託協会				8,530	8,530	8,530	17,060
受取研究会等負担金				5,755	5,755		5,755
日本証券業協会				5,755	5,755		5,755
受取研究調査費				3,855	3,855		3,855
日本証券業協会				2,058	2,058		2,058
日本投資者保護基金				1,178	1,178		1,178
日本取引所グループ				619	619		619
指定正味財産からの振替額				336,411	336,411		336,411
受取一般寄付金				60	60	60	120
刊行物収入				2,187	2,187		2,187
複写料収入				129	129		129
講演会関係収入				754	754		754
流動資産運用収入						3	3
經常収益計	0	0	0	437,816	437,816	83,693	521,508

- (注) 1. 特定資産(退職給付引当資産)運用益は法人会計に充当する。
 2. 受取会費は50%以上を公益事業、残余を法人会計に充当する。
 3. 流動資産運用収入は法人会計に充当する。
 4. 記載金額は、千円未満の端数を四捨五入して表示。

科 目	研究調査事業	講演会事業	図書館事業	共通	公益目的事業計	法人会計	合計
経常費用							
事業費	274,472	27,329	87,883		389,684		389,684
役員報酬	24,423	4,770	0		29,192		29,192
給与手当	90,331	3,535	22,958		116,825		116,825
退職給付費用	12,001	1,519	1,577		15,097		15,097
福利厚生費	15,274	1,151	4,304		20,729		20,729
賃借料	54,972	0	39,096		94,068		94,068
諸謝金	15,086	2,435	0		17,521		17,521
原稿料	4,817	503	0		5,319		5,319
図書費	2,104	0	11,555		13,658		13,658
印刷費	15,524	3,398	229		19,152		19,152
会議費	4,661	5,826	0		10,487		10,487
旅費交通費	9,650	17	32		9,698		9,698
通信運搬費	4,067	1,147	219		5,433		5,433
その他事業費	21,562	3,028	7,913		32,505		32,505
管理費						75,982	75,982
役員報酬						12,511	12,511
給与手当						28,231	28,231
賃借料						14,281	14,281
その他管理費						20,959	20,959
経常費用計	274,472	27,329	87,883	0	389,684	75,982	465,665
当期経常増減額	△ 274,472	△ 27,329	△ 87,883	437,816	48,132	7,711	55,843
経常外収益計							0
経常外費用計	25,675	0	16,885	0	42,560	10,801	53,361
当期経常外増減額	△ 25,675	0	△ 16,885	0	△ 42,560	△ 10,801	△ 53,361
当期一般正味財産増減額							2,482
一般正味財産期首残高							1,134,827
一般正味財産期末残高							1,137,309
II 指定正味財産増減の部							
増加の部							
受取助成金等							283,091
受取助成金							281,336
受取特定寄付金							1,500
指定正味財産運用益							255
減少の部							
一般正味財産への振替額							336,411
当期指定正味財産増減額							△53,320
指定正味財産期首残高							204,649
指定正味財産期末残高							151,330
III 正味財産期末残高							1,288,639

(注). 事業費は全額、公益目的事業に係る費用である。

財務諸表に対する注記

1. 重要な会計方針

(1) 有価証券の評価基準及び評価方法

満期保有目的の債券・・・償却原価法によっている。

(2) 固定資産の減価償却について

① 設備及び備品

法人税法に基づく定額法によっている。

② リース資産

所有権移転外ファイナンス・リース取引に係るリース資産

リース期間を耐用年数とし、残存価額を零とする定額法によっている。

(3) 引当金の計上基準について

① 賞与引当金

役職員に対する賞与の支払いに備えるため、支給見込額のうち当期に帰属する額を計上している。

② 退職給付引当金

役職員に対する退職金の支払いに備えるため、期末退職金の自己都合要支給額に相当する額を計上している。

(4) リース取引の処理方法

リース料総額300万円を超える所有権移転外ファイナンス・リース取引については、通常の売買取引に係る方法に準じた会計処理によっている。

(5) 消費税の会計処理

税込方式によっている。

2. 基本財産及び特定資産の増減額及びその残高

基本財産及び特定資産の増減額及びその残高は、次のとおりである。

(単位:円)

科 目	当期首残高	当期増加額	当期減少額	当期末残高
基本財産				
預金	128,936,993	138,618,208	200,000,000	67,555,201
投資有価証券	748,524,487	200,100,392	100,506,400	848,118,479
差入保証金	122,538,520	5,719,200	43,931,400	84,326,320
小 計	1,000,000,000	344,437,800	344,437,800	1,000,000,000
特定資産				
退職給付引当資産	136,217,826	19,613,004	1,793,041	154,037,789
学術出版・調査研究積立基金	204,649,453	100,057,710	153,377,310	151,329,853
小 計	340,867,279	119,670,714	155,170,351	305,367,642
合 計	1,340,867,279	464,108,514	499,608,151	1,305,367,642

3. 基本財産及び特定資産の財源等の内訳

基本財産及び特定資産の財源等の内訳は、次のとおりである。

(単位:円)

科 目	当期末残高	(うち指定正味財産 からの充当額)	(うち一般正味財産 からの充当額)	(うち負債に対応 する額)
基本財産				
預金	67,555,201	0	67,555,201	0
投資有価証券	848,118,479	0	848,118,479	0
差入保証金	84,326,320	0	84,326,320	0
小 計	1,000,000,000	0	1,000,000,000	0
特定資産				
退職給付引当資産	154,037,789	0	0	154,037,789
学術出版・調査研 究積立基金	151,329,853	151,329,853	0	0
小 計	305,367,642	151,329,853	0	154,037,789
合 計	1,305,367,642	151,329,853	1,000,000,000	154,037,789

4. 固定資産の取得価額、減価償却累計額及び当期末残高

固定資産の取得価額、減価償却累計額及び当期末残高は、次のとおりである。

(単位:円)

科 目	取得価額	減価償却累計額	当期末残高
設 備	106,555,228	5,458,295	101,096,933
備 品	39,194,468	19,695,667	19,498,801
リース資産	1,683,102	812,532	870,570
合 計	147,432,798	25,966,494	121,466,304

(注)備品の減価償却累計額は、一括償却資産の償却額を含む。

5. 保証債務等の偶発債務

該当なし。

6. 満期保有目的の債券の帳簿価額、時価及び評価損益

満期保有目的の債券の帳簿価額、時価及び評価損益は、次のとおりである。

(単位:円)

科 目	帳簿価額	時 価	評価損益
#310利付国債ほか10銘柄	961,689,400	971,454,000	9,764,600

7. 指定正味財産から一般正味財産への振替額の内訳

指定正味財産から一般正味財産への振替額の内訳は、次のとおりである。

(単位:円)

内 容	金 額
経常収益への振替 受取助成金等の振替額	336,410,877
合 計	336,410,877

8. 関連当事者との取引の内容

該当なし。

9. 資産除去債務

(1) 資産除去債務の概要

事務室、図書館等について不動産賃貸借契約を締結しており、賃借期間終了時に原状回復義務を有しているため、契約及び法令上の義務に関して資産除去債務を計上している。

(2) 資産除去債務の金額の算定方法

資産除去債務の見積りに当たり、使用見込期間は15年、割引率は0.059%を採用している。

(3) 資産除去債務の総額の増減

当期首残高	0 円
有形固定資産の取得に伴う増加額	45,078,388 円
時の経過による調整額	26,708 円
資産除去債務の履行による減少額	0 円
当期末残高	45,105,096 円

10. 重要な後発事象

該当なし。

貸借対照表及び正味財産増減計算書の附属明細書

1. 基本財産及び特定資産の明細

財務諸表に対する注記に記載しているため、記載を省略する。

2. 引当金の明細

(単位:円)

科 目	当期首残高	当期増加額	当期減少額		当期末残高
			目的使用	その他	
賞与引当金	0	14,126,667	0	0	14,126,667
退職給付引当金	136,217,826	19,567,106	1,747,143	0	154,037,789

3. 財産目録

令和 2年 3月 31日現在

貸借対照表科目	場所・物量等	使用目的等	金額(円)
I 資産の部			
1. 流動資産			
現金預金			
現金	手元保管	運転資金として	617,995
普通預金	みずほ銀行兜町支店	〃	47,908,173
〃	りそな銀行北浜支店	〃	26,709,413
〃	東京証券信用組合	〃	7,293
通常貯金	ゆうちょ銀行(北浜)	〃	538,279
振替口座	ゆうちょ銀行(日本橋)	〃	2,184,231
流動資産合計			77,965,384
2. 固定資産			
(1) 基本財産			
普通預金	みずほ銀行兜町支店	公益目的保有財産であり、運用益	65,292,882
定期預金	東京証券信用組合	を公益目的事業共用の財源として	2,262,319
投資有価証券	第61回利付国債ほか	使用している	848,118,479
差入保証金	太陽生命日本橋ビルほか	公益目的保有財産であり、研究室等に使用する借室の保証金である	84,326,320
基本財産合計			1,000,000,000
(2) 特定資産			
退職給付引当資産	有価証券ほか 第61回利付国債ほか	役職員の退職給付引当金見合の引当資産として管理している	154,037,789
学術出版・調査研究積立基金資産	有価証券ほか 第62回利付国債ほか	公益目的保有財産であり、運用益を公益目的事業共用の財源として使用している	151,329,853
特定資産合計			305,367,642


貸借対照表科目	場所・物量等	使用目的等	金額(円)
(3) その他の固定資産			
設備	東京・大阪	公益目的事業及び法人管理運営に使用している	101,096,933
備品	東京・大阪	"	19,498,801
リース資産	東京	公益目的事業及び法人管理運営に使用している	870,570
その他の固定資産合計			121,466,304
固定資産合計			1,426,833,946
資産合計			1,504,799,330
II 負債の部			
1. 流動負債			
短期リース債務		複写機リース料	696,456
預り金	源泉所得税	給与等に係る源泉所得税	2,019,986
賞与引当金		役職員に対する賞与の翌期支払いに備えるための引当金である。	14,126,667
流動負債合計			16,843,109
2. 固定負債			
長期リース債務		複写機リース料	174,114
資産除去債務		原状回復義務履行に備えるための見積撤去・回復費用である。	45,105,096
退職給付引当金		役職員に対する退職金の支払いに備えるための引当金である	154,037,789
固定負債合計			199,316,999
負債合計			216,160,108
正味財産合計			1,288,639,222

独立監査人の監査報告書

令和2年5月8日

公益財団法人 日本証券経済研究所
理事長 増井 喜一郎 殿

みおぎ監査法人
東京都千代田区
指定社員
業務執行社員

公認会計士 渡邊健悟 

<財務諸表等監査>

監査意見

当監査法人は、公益社団法人及び公益財団法人の認定等に関する法律第23条の規定に基づき、公益財団法人日本証券経済研究所の平成31年4月1日から令和2年3月31日までの令和元年度の貸借対照表、損益計算書（公益認定等ガイドラインI-5(1)の定めによる「正味財産増減計算書」をいう。）及び財務諸表に対する注記並びに附属明細書について監査し、あわせて、正味財産増減計算書内訳表（以下、これらの監査の対象書類を「財務諸表等」という。）について監査を行った。

当監査法人は、上記の財務諸表等が、我が国において一般に公正妥当と認められる公益法人会計の基準に準拠して、当該財務諸表等に係る期間の財産及び損益（正味財産増減）の状況を、全ての重要な点において適正に表示しているものと認める。

監査意見の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準における当監査法人の責任は、「財務諸表等の監査における監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、法人から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

財務諸表等に対する理事者及び監事の責任

理事者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる公益法人会計の基準に準拠して財務諸表等を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない財務諸表等を作成し適正に表示するために理事者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

財務諸表等を作成するに当たり、理事者は、継続事業の前提に基づき財務諸表等を作成することが適切であるかどうかを評価し、我が国において一般に公正妥当と認められる公益法人会計の基準に基づいて継続事業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

監事の責任は、財務報告プロセスの整備及び運用における理事の職務の執行を監視することにある。

財務諸表等の監査における監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した監査に基づいて、全体としての財務諸表等に不正又は誤謬による重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得て、監査報告書において独立の立場から財務諸表等に対する意見を表明することにある。虚偽表示は、不正又は誤謬により発生する可能性があり、個別に又は集計すると、財務諸表等の利用者の意思決定に影響を与えると合理的に見込まれる場合に、重要性があると判断される。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に従って、監査の過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- ・ 不正又は誤謬による重要な虚偽表示リスクを識別し、評価する。また、重要な虚偽表示リスクに対応した監査手続を立案し、実施する。監査手続の選択及び適用は監査人の判断による。さらに、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手する。
- ・ 財務諸表等の監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、監査人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、監査に関連する内部統制を検討する。
- ・ 理事者が採用した会計方針及びその適用方法の適切性、並びに理事者によって行われた会計上の見積りの合理性及び関連する注記事項の妥当性を評価する。
- ・ 理事者が継続事業を前提として財務諸表等を作成することが適切であるかどうか、また、入手した監査証拠に基づき、継続事業の前提に重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められるかどうか結論付ける。継続事業の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、監査報告書において財務諸表等の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する財務諸表等の注記事項が適切でない場合は、財務諸表等に対して除外事項付意見を表明することが求められている。監査人の結論は、監査報告書日までに入手した監査証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、法人は継続事業として存続できなくなる可能性がある。
- ・ 財務諸表等の表示及び注記事項が、我が国において一般に公正妥当と認められる公益法人会計の基準に準拠しているかどうかとともに、関連する注記事項を含めた財務諸表等の表示、構成及び内容、並びに財務諸表等が基礎となる取引や会計事象を適正に表示しているかどうかを評価する。

監査人は、監事に対して、計画した監査の範囲とその実施時期、監査の実施過程で識別した内部統制の重要な不備を含む監査上の重要な発見事項、及び監査の基準で求められているその他の事項について報告を行う。

<財産目録に対する意見>

財産目録に対する監査意見

当監査法人は、公益社団法人及び公益財団法人の認定等に関する法律第23条の規定に基づき、公益財団法人日本証券経済研究所の令和2年3月31日現在の令和元年度の財産目録（「貸借対照表科目」、「金額」及び「使用目的等」の欄に限る。以下同じ。）について監査を行った。

当監査法人は、上記の財産目録が、我が国において一般に公正妥当と認められる公益法人会計の基準に準拠しており、公益認定関係書類と整合して作成されているものと認める。

財産目録に対する理事者及び監事の責任

理事者の責任は、財産目録を、我が国において一般に公正妥当と認められる公益法人会計の基準に準拠するとともに、公益認定関係書類と整合して作成することにある。

監事の責任は、財産目録作成における理事の職務の執行を監視することにある。

財産目録に対する監査における監査人の責任

監査人の責任は、財産目録が、我が国において一般に公正妥当と認められる公益法人会計の基準に準拠しており、公益認定関係書類と整合して作成されているかについて意見を表明することにある。

利害関係


法人と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。


以 上

監査報告書

令和2年5月15日

公益財団法人 日本証券経済研究所
理事長 増井喜一郎 殿

監事 加藤 哲夫 

監事 丸山 雅彦 

私たち監事は、平成31年4月1日から令和2年3月31日までの第60期事業年度における理事の職務の執行を監査いたしました。その方法及び結果について、次のとおり報告いたします。

1. 監査の方法及びその内容

各監事は、理事及び使用人と意思疎通を図り、情報の収集および監査の環境の整備に努めるとともに、理事会その他重要な会議に出席し、理事及び使用人からその職務の執行状況について報告を受け、必要に応じて説明を求め、重要な議書類等を閲覧し、業務及び財産の状況を調査いたしました。以上の方法に基づき、当該事業年度に係る事業報告及びその附属明細書について検討いたしました。

さらに、会計帳簿又はこれに関する資料の調査を行い、また、みおぎ監査法人から監査の実施状況及びその結果について報告を受け、当該事業年度に係る計算書類（貸借対照表及び正味財産増減計算書）及びその附属明細書並びに財産目録について検討いたしました。

2. 監査意見

(1) 事業報告等の監査結果

- 一 事業報告及びその附属明細書は、法令及び定款に従い、当法人の状況を正しく示しているものと認めます。
- 二 理事の職務の執行に関する不正の行為又は法令若しくは定款に違反する重大な事実は認められません。

(2) 計算書類及びその附属明細書並びに財産目録の監査結果

計算書類及びその附属明細書並びに財産目録は、当法人の財産及び損益の状況をすべての重要な点において適正に示しているものと認めます。

以上

